Indoor Environment, Vol.25, No.1, p.99, 2022

学術大会における大会長賞とさらなる学会誌の発展をめざして

Prospect for Advanced Cultivation on Journal of INDOOR ENVIRONMENT with Prize Winners at Annual Meetings of the SIEJ

萬羽郁子[1,4)] *, 徳村雅弘[2,4)], 池田四郎[3,4)]

[1)]東京学芸大学教育学部
[2)]静岡県立大学食品栄養科学部
[3)]株式会社ガステック
[4)]一般社団法人室内環境学会 出版委員会

室内環境学会学術大会(2009年までは研究発表会)では，大会長賞として優秀と認められたポスター発表者と口頭発表者に対し表彰が行われてきました。2020年および2021年室内環境学会学術大会では，コロナ禍での感染対策としてハイブリッド型での開催(口頭発表のみ)となり，2日間に渡り多くの口頭発表と活発な議論が繰り広げられました。大会後には受賞者が決められ，機関誌である「室内環境」で発表されました(2020年大会については第24巻1号，2021年大会については本号の会報にて発表)。

大会長奨励賞は，その名の意味する通り，業績を高く評価し今後への期待と激励の意を表する賞です。これまでに，奨励賞を受賞した発表テーマについて，学術大会での質問や意見を踏まえてさらにブラッシュアップされ，その後原著論文として「室内環境」誌に投稿，掲載された例も複数あります。学術大会での発表および会員同士のディスカッション，それらを通して着眼点や考察内容の点で深化し，査読を経て学術誌の掲載論文として研究成果が公開されるプロセスは，学会における学術活動の根幹とも言えます。出版委員会としても，室内環境に関する学術的・実務的研究の発展および普及のために，積極的な活動が重要と考えています。

23巻1号よりスタートした本特集ですが，学術大会に参加されなかった会員の方からは「大会長賞を受賞された発表の内容を知ることができてよかった」というお声がけを頂いたほか，「研究者仲間もいろいろと苦労しているのがわかり，近い存在に感じられた」というコメントをいただきました。コロナ禍となり，日頃の学会活動においても会員同士のコミュニケーションが取りにくい状況が続いていることと存じます。まだまだ「密」の回避やソーシャルディスタンスの確保が求められる状況が続いていますが，本特集を通して，受賞者の声を身近に感じて頂き，少しでも会員同士の“心の距離”を縮めるきっかけとなればと考え，本号でもこの特集を継続してお届けすることにいたしました。

本特集では，2021年室内環境学会学術大会(関西大会)での受賞演題である大会長奨励賞(4件)，大会長技術賞(4件)，学生賞(5件)と，2020年室内環境学会学術大会(東北大会)での受賞演題のうち24巻1号の特集(前回)でお伝えできなかった大会長奨励賞(4件)，大会長技術賞(3件)の「受賞の言葉」をお届けいたします。研究の概要はもちろん，各著者の着想や得られたデータ，まとめ方などご覧いただければと思います。また受賞者の皆様には，今後ぜひ論文としてまとめていただき，「室内環境」誌にご投稿くださいますよう，紙面を借りてお願い申し上げます。

最後に本特集にあたり，ご多忙の中，快く執筆を引き受けていただいた受賞者の先生方，並びに本特集にご理解とご協力をいただきました2020年室内環境学会学術大会大会長・実行委員長の野﨑淳夫先生および2021年室内環境学会学術大会大会長の山中俊夫先生，実行委員長の吉田俊明先生に心より御礼申し上げます。

*Corresponding author（責任著者） E-mail: ibamba@u-gakugei.ac.jp, Tel: 042-329-7430